子宮頸がんワクチン接種について

福祉保健部長 関係機関と連携し対応する。

隈部和久 議員

議員 国は子宮頸がんワクチン接種の積極勧奨を、新年度から行うと発表したが、経緯を含め説明を。

福祉保健部長 このワクチンは、平成21年に承認され、25年4月から定期接種となったが、副反応の報告等を受け、25年6月から積極勧奨を中止した。これにより本市でも接種を促したり、予診票を送付することができなくなった。近年、国内外で有効性や安全性に関するデータが蓄積されたことにより、厚生労働省が、積極的な接種勧奨の再開を決定した。

議員 平成25年から令和2年までの8年間の、本市の接種対象者（小学6年から高校1年生相当）の内、接種者数と未接種者数は。

福祉保健部長 接種が1,622名、未接種が1,745名。

議員 我が国における子宮頸がんの、年間の患者数、死亡者数、発症年齢の概数は。

福祉保健部長 年間約1万人余りが発症し、3千人近くの死亡者数があり、直近20年間は増加傾向である。また発症年齢も、以前は50歳代がピークであったが、最近は20歳代で発症し、30歳代後半がピークとなり、若年化している。

議員 このワクチンの有効性は。

福祉保健部長 50％～70％の発症予防効果といわれる。

議員 このワクチン接種の対象が低年齢の理由は、性交渉未経験であることが必要条件であるからだが、WHO（世界保健機関）や厚労省による、効果及び副反応に関する見解は。

福祉保健部長 国内外での大規模研究によるデータや、様々な審議会の報告で、ワクチンの安全性と有効性が、副反応のリスクを明らかに上回るという確認が示された。

議員 高い接種率の外国では、死亡者は減少しているが、我が国は増加傾向である。ワクチン接種とともに（接種の有無に限らず）、20歳以降、2年毎の検診が最重要である。情報発信による啓発に、しっかり努めるよう強く要望する。

ワクチン接種（イメージ）

質問の様子を動画で見よう

その他質問
- 市長選挙について
- 木彫マリア像移設について
- 旧給食センター利活用について
- スマート農業について

原城跡の広場から海岸への抜け穴を公式に調査してはどうか

教育長 原城・日野江城跡専門委員会の意見を聞いた上で、判断していきたい。

金子憲太郎 議員

原城跡の抜け穴について

議員 「夜明け前・原城の乱」の作者の方が、実際に、海岸から原城跡の広場に向けた穴に潜って撮影をされた写真や図面があるが、これについてどのように思うか。

教育長 写真や説明書きを見ると、人工的に掘られたような跡があるように見え、新鮮さを感じたが、抜け穴として公的な文献や絵図がないので、原城・日野江城跡専門委員会の意見を聞いた上で判断していきたい。

議員 ぜひ公式に調査をして、原城・日野江城や口之津歴史資料館など、昔から本市が持っている魅力を大切にした取組をすべきではないか。

教育次長 原城跡を含めた整備に関しては、ガイダンス施設や、物産館などを併設した世界遺産関連施設を拠点に、南島原市を一つのミュージアムと捉え、いろいろな観光施設や文化財を、来訪者の方に周遊していただくような計画を、来年の3月までには完成させたい。

原城跡本丸案内図

定年延長制度について

議員 公務員法が改正され、定年が延長されることになったが本市はどのように考えているのか。

総務部長 国家公務員は、令和5年度から、2年に1歳ずつ引き上げ、最終的に65歳にするという制度ができ、同様の措置が取られると思っている。

議員 定年延長職員と再任用職員が混在するが、賃金はどのようになるのか。

総務部長 定年延長職員の給与水準は、今のところ60歳でもらっている給料の7割が設定をされるということになっており、再任用職員との格差が出てくると認識しているが、今後の状況をよく吟味しながら対応していきたい。

質問の様子を動画で見よう

その他質問
- パワハラ、セクハラの相談体制整備について